私たちがやらないといけないこと

鶴ヶ島第二小学校　六年　秋山　咲樂

みなさんは、八月六日、八時十五分に何をしていましたか。私は、平和の大切さをさらに知るために、広島県の平和記念式典に参加してきました。

みなさんは、七十九年前に広島であったことを知っていますか。七十九年前の広島は、とても賑やかなまちでした。しかし、一九四五年八月六日八時十五分に原子爆弾のリトルボーイが投下され、広島のまちは色鮮やかなまちから一瞬にして、灰色のまちになってしまいました。爆心地から3.5キロメートル以内にいた人たちは、熱線を受けた部分の皮膚をやけどしました。特に爆心地から1.2キロメートル以内にいた人たちは、皮膚だけでなく体の中まで傷つけられ、ほとんどの人がその日か数日で亡くなったそうです。さらに原爆は大量の放射線を出しました。放射線は、人間には見えないし、においもありませんが、体

の奥深くまで入り、大量に受けると体の中の細胞が壊れてしまいます。放射線を一キロメートル以内に受けた人の多くはその日のうちに亡くなりました。放射線の恐ろしさは人をすぐに傷つけるだけでなく、何年もたってから白血病や色々ながんを引き起こします。一九四五年のうちに亡くなった人は、八月六日の広島にいた三十五万人のうちの十四万人だそうです。たった一発の原爆で、たった一瞬の出来事で広島にいた十四万人の人々が亡くなってしまったのです。私には想像できません。考えてみてください。鶴ヶ島市の人口は約七万人です。鶴ヶ島市に住んでいる約七万人の倍の人たちが亡くなってしまったのです。信じられますか。あの日広島にいた三十五万人、亡くなってしまった十四万人の人々は何か悪いことをしたのでしょうか。私にはそう思えません。

私が一番印象に残ったのは平和記念公園です。平和記念公園には、原爆の子の像をはじ

20 × 20

めとするたくさんの像がありました。そして平和記念公園の中で特に気になったのは、原爆の子の像です。原爆の子の像のモデルとなった人物は、佐々木禎子さんです。禎子さんは二歳の時に被爆しました。六年生の秋には運動会のリレーでアンカーを務めるほど元気で活発なこどもでしたが、次の年に白血病になってしまいました。ある日、禎子さんは折り鶴を千羽折ると願いが叶うと聞き、病気が治るようにと鶴を折り続けますが、その願いは叶わないまま亡くなってしまいます。この悲しい知らせを聞いた同級生たちはなにか禎子さんのために、記念になるものを作ろうと呼びかけ、原爆で亡くなったすべてのこどもを慰めるためにつくられたのが、原爆の子の像です。また、広島には七十五年草木も生えぬと言われていたけれど、今は緑がたくさんあってとてもきれいな公園になっていて二度と過ちを繰り返さないという強い意志が感じられました。

20 × 20

広島平和都市記念碑には、原爆死没者名簿が納められており、中央には「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」という言葉が刻まれています。すべての原爆犠牲者の冥福を祈り、戦争という過ちを繰り返さないことを誓っています。「願うだけでは平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」

これは、令和６年こども代表の加藤さんと石丸さんの平和への誓いの言葉です。広島を知ることは未来を考えること。皆さんも今一度広島のことを知り、未来のことを考えてみませんか。